



ICT 院内感染制御チーム紹介

今年もチーム一丸となって、院内感染防止対策の推進を図ります。

院内ラウンドは全ての部署を当番制で巡回しています。センター祭ではご家族や地域の皆様と共に感染防止策の学びの場を企画します！今年度のICTの具体的な活動は、以下のように予定しています。

I 令和7年度取り組み課題

- 1 標準予防策の遵守
- 2 感染経路別予防策の理解

II 目的

職員全員が、標準予防策を正しく理解し実践できる

III 目標

- 1 各部署の課題を明確化し対策を立案し実践
- 2 医療安全研修（悉皆）の確認問題の平均点が95%以上
- 3 院内感染対策マニュアルを周知し、実践
 - ・ICTラウンドの「環境チェック」で全部署の平均90%以上
- 4 院内の感染症アウトブレイク0件（1部署で10人以上の同一感染症の発生）
- 5 MRSA新規検出0.03以下

この目標を達成するために、日常からの感染予防策に取り組んでいきます！！
手指衛生や環境整備は、職員一人一人ができることです。予防策を習慣化できるよう職員全員で取り組んでいきましょう！！

また、ラウンドなど「他者の視点」からの情報交換は、「課題の気付き」になります。
チームワークを良くし、対話できる（コメント交換できる）風土にしていけるよう心がけています。どうぞよろしくお願いいたします。

〒183-8553
東京都府中市武蔵台2-9-2
東京都立府中療育センター
電話 042(323)5115
FAX 042(322)6207

*ー*ホームページもご覧下さい*ー*

<http://www.fukushi.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>

ひだまり

5.12

NURSING DAY

都立府中療育センター新聞 第569号 発行日 令和7年5月31日

令和7年看護の日 イベント



色調豊かな緑から、みなぎる生命力を感じる初夏。

ナイチンゲールの誕生日である5月12日に『看護の日』のイベントを開催しました。今年のテーマは『みんなで知ろう、防災のこと』です。外来の待合ブースの一部を借りて、3つの掲示と防災物品の展示を行いました。

「防災マップを活用しよう！給水拠点を探そう！」は、府中市の防災マップから給水拠点を探してもらう参加型の掲示です。学校や病院・公園の近くなどとヒントをお伝えし、楽しんで給水所探しをしてもらいました。自分の居住地でも探すきっかけになったようです。



「災害発生時、自宅の危険なところは？」では、医療的ケアを必要とする方が過ごすお部屋の一般的なレイアウトから災害時の危険なポイントを掲示しました。

「防災カードの作成」は、災害発生後慌てずに行動するためには『情報』が大切です。住所や氏名、連絡先、かかりつけ医、常備薬、必要な医療処置、特性などを記載し携帯できるように冊子にした防災カードを作成し配布しました。情報を整理しておくことは必要だと思っていてもなかなかできないので、よかったですとお声をいただきました。

防災物品展示では、低コストで備える防災用品の展示や5リットルの水が入った給水バックの重さ体験コーナーを設置しました。また、今年は初めて栄養科にご協力いただき、「栄養科で保管している災害備蓄食品3日分」として防災備蓄食品の展示を行いました。ブースにいた栄養士さんと直接お話ができてとても参考になりました、と感想をいただいています。



今年度は防災をテーマにしましたが、新鮮だったと好評でした。いつ起こるかわからない漠然とした不安に『備える』ことを看護師の視点からお伝えでき、参加してくださったご家族様の不安や悩みなどを知るととても良い機会となりました。

「看護の日」のイベントに、多くの方々のご協力をいただき、無事に終えることができました。深く感謝申し上げます。



実行委員のメンバー



2D バスハイク

2D病棟 福祉職

5月7日に、バスハイクで「三鷹市星と森と絵本の家」に行ってきました。前日に雨が降っていたのでお天気が心配でしたが、当日は雨も上がり、外出には最適の涼しい陽気となりました。昼食後、元気にセンターを出発し、車中では、呼名をすると笑顔で「はい」と答えたり、目を大きく開け車窓からの景色を眺めていたり、時々笑い声をあげたり、と様々な様子で楽しむ姿がみられました。

バスを降り、目的地までは国立天文台の敷地内の小道を散策しながら行きました。木々に囲まれ雨上がりの緑が鮮やかで、とても気持ちのよい散策でした。絵本之家に到着し、原画が展示されている回廊を抜けると、昔懐かしい香りがする古民家につながっていました。そこには昭和の本から現代の本までたくさんの本が並んでいて、その中から読みたい本を何冊か選んで読みました。絵本に視線を向けじっと聴いたり、興味津々に並んだ絵本を見回していたり、各々の楽しみ方で絵本を楽しむことが出来ました。静かで落ち着いた雰囲気の中で、ゆったりとした時間を過ごしてきました。



1B 春のお楽しみ会

1B病棟 福祉職



5月21日（水）にお楽しみ会（上映会）を開催しました。今年は、2025年問題のひとつとして、ビデオテープの期限が切れるとのことでした。（カビなどで見られなくなる。）そんな中で、30年前の1B病棟の様子が録画されたビデオテープが出てきたのです。まだ、移転前の広いグラウンドでの運動会や、町田の薬師池公園まで行った遠足、バスハイクで行ったカラオ

ケボックスの様子などが収められていました。30年前といえば現在60歳の方も30歳とお若く（当たり前ですが）、髪の毛が黒かったり、現在と比べて背筋が伸びていたり、面影で「〇〇さんだ！」と利用者、職員共に歓声を上げて盛り上がり見ました。また、ある利用者は懐かしさで終始泣いている様子も見られました。



医療機器のスペシャリスト臨床工学技士(CE)に聞く

センターに唯一配置されている臨床工学技士の大沢さんにインタビューしました。

—どんな業務を担当していますか

医療機器の管理業務が中心です。機器の購入計画から、点検・保守業務、医療機器の操作・取扱方法についての勉強会の開催など、センターでの医療機器全般に関与しています。また、呼吸機能・症状に関与する問題改善に向けた取り組みを行う「呼吸サポートチーム」のメンバーとして参加しています。



チーム医療の一員として活躍しています

—CEの役割は一般医療機関と違っていませんか センターならではの特色はありますか

一般医療機関と異なる点は、臨床業務ではなく機器管理業務が中心になることです。中でも特に導入する医療機器の選定に特色があります。例えば、人工呼吸器の更新計画では、急性期領域で使用する動作機能を省略して、慢性期に沿った駆動ソフトウェアを主搭載とした仕様にし、シンプルな操作方法を考慮しています。

人工呼吸器においてはさらに、短期使用と早期離脱が望まれる一般医療機関とは大きく異なります。センター利用者にとっての呼吸器は、日常生活の中で最も重要な生命維持管理装置であり、同時期導入の機種と比べて連続駆動時間が長くなるのが特徴です。部品劣化や交換サイクルも早くなるため、機器の耐用年数付近での新規更新が重要となります。

—これまでセンターで印象に残っていることはありますか

令和2年度コロナ禍での旧センターから新(現)センターへの移転は、センター利用者全員が1日で移動する大規模事業でした。タイムスケジュール上、人工呼吸器使用の利用者と機器を同じタイミングでは搬出・搬入できなかったのですが、同じ機器を同数レンタルして移転日前から先に新センターへ設置しておき、利用者が新センターに到着後すぐに日常通り使用できるよう計画を立てました。しかし、移転時期は全国的な人工呼吸器不足で、移転日が近づくにつれ徐々にレンタル可能台数が減っていき、機器搬送の計画を何度も練り直しました。最終的に、センター一丸となって利用者全員の移転を無事完了することができたことは、今でも強く印象に残っています。

—これからCEを目指したい人へメッセージを

現在の医療に医療機器は不可欠で、多くの種類が導入されています。それらを安全に操作、適切な管理をすることが臨床工学技士の業務ですが、医師や看護師、コメディカルと連携をとり、医療と工学の両方の視点で知識や意見を提供する、チーム医療の一員としての役割があります。安全な医療を提供するスペシャリストとして、ぜひ臨床工学技士を選んでいただけたらと思います。

医療機器が並ぶ棚の前で、人工呼吸器のチェック中

